笠岡で最初に建てられた寺院

関戸の廃寺跡

指定区分	県指定史跡
読みかた	せきどのはいじあと
所在地	笠岡市関戸
指定年月日	昭和38年8月1日
解説	白鳳時代（7世紀後半）創建の古代寺院。奈良時代、平安時代にも修理がなされたが、平安時代の終わりに廃絶した。1辺130mの方形の敷地をもち、塔、金堂、講堂、回廊などが配置されていたことが明らかになっている。塔の心礎は長さ2.6mの巨石で、ここに直径1mの柱が据えられたとみられる。各時期の瓦のほか、塔の相輪、風招などの破片も出土している。
アクセス方法	笠岡ICから8km
公開状況	自由
設備	駐車場 P
備考	現地では、塔の心礎を見学できる。主な出土品は、笠岡市立郷土館（問：0865-69-2155）に展示されている。

きっずページ

していくぶん （指定区分）	県指定史跡
ぶんかざいめい （文化財名）	関戸の廃寺跡
よみかた	せきどのはいじあと
しょざいち （所在地）	笠岡市関戸
していしたひ （指定した日）	昭和38年8月1日
せつめい	飛鳥時代（あすかじだい）、笠岡（かさおか）で最初（さいしょ）に建（た）てられた大きなお寺（てら）の塔（とう）が残（のこ）っています。平安時代（へいあんじだい）に焼失（しょうしつ）したと思われます。奈良時代（ならじだい）のときの瓦（かわら）が、とてもたくさん発見（はっけん）されました。今ではほとんどが田んぼになっていますが、お寺があった位置（いち）が今でも見ることができます。